［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　2008年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	０８７１０００２３８
法人名	有限会社　ヘルスケアー下妻
事業所名	グループホームうらら
所在地	茨城県下妻市石の宮24－1 （電　話）0296-45-1500

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4－9－3　D101		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成21年2月16日

【情報提供票より】（平成20年10月24日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14年　4月　1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤 8人，非常勤 1人，常勤換算 5．7人

（2）建物概要

建物構造	木造　造り
	2 階建ての　1 階 ～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	45,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	(有)（ 100，000 円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1，100円		

（4）利用者の概要（10月24日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢　平均	88 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	軽部病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスと併設で建てられているホームは静かな新興住宅地にある。笑顔と笑い声の絶えない利用者と職員が印象的なホームである。地域に根ざした施設を目指し、日々の交流や関係作りを積極的に行なっている。利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、意見交換を行ないながら利用者の生活を支えている。今後も、地域や行政との協働のもとでより質の高いケアの提供が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価を受け、研修への参加や食の混乱のある利用者への対応など、改善方法や更に改善していく点などについて話し合いがもたれ、改善に向けて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	ミーティングや申し送りの時間などを利用し、管理者が中心となり全職員で確認しあいながら作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月に1度、定期的に開催しており、ホームの取り組みを報告しそれについての改善点などを話し合い、ケアに活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	意見箱が設置してあり、また、いつでも要望や意見が伝えられるよう、職員がコミュニケーションを取るよう心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に入会し、清掃活動などに参加している。また、日常的に挨拶を交わしたり、野菜などをいただくような関係作りを行なっている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・信頼・満足」という基本理念を掲げている。地域に対しても同様の理念を持って関わりを行なっている。		今後は、その地域に対しての関わりを理念に盛り込み、明確化していくことで更に、意識付けができるよう取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、夕の申し送り時に理念の唱和し、理念とケアのずれが無いか確認している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行なわれる夏祭りに参加したり、季節の花や野菜を提供してくれたりと普段から交流を持っている。ボランティアも地域の方が中心で、利用者も楽しみにしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を前向きに捉え、取り組んでいる。前回の評価を活かし、改善方法の話し合いも行なわれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的に開催されており、意見交換も行なわれているが、参加メンバーが片寄ってしまうため今後は、イベントと合わせて家族の参加も多くしていきたいと考えている。		会議の内容や参加者が片寄らないためのアイディアを職員間で出し合いながら、実現に向けて取り組みを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居状況報告を1ヶ月に1度行っている他、中学校のボランティア受け入れの要請がある。また、相談や意見交換もできる関係作りがされている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や書面での近況報告や健康状態の報告、イベントや外出で利用した金銭の決算報告など、細やかに報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接話をしてくれる家族が多いため、意見箱に要望など入ることは少ない。要望や意見はその都度解決できるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動もほとんどなく、利用者への影響は見られていない。また、新しい職員には他の職員が付き添い、アドバイスをしながら利用者との関わりを持っている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	救急法やマナー講習など外部の研修に参加しているが、管理者は、まだ研修の機会が少ないと感じている。また、内部の研修も充実させたいと考えている。	○	今後は、具体的な研修計画や予算立てを行い、内部研修の充実や、外部研修の参加を行っていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡協議会に参加し、情報交換や意見交換を行なっている。また、市内でも連絡協議会を立ち上げている。		市内の連絡協議会のなかで、職員の交換研修などを行うことで、更に連携を深め、視野を広げたケアの確立を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用（宿泊）や日中の利用、デイサービス利用からの入居など入居希望者の状況により、柔軟に対応し馴染みの関係作りに努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の中で利用者から学ぶことは多く、また、職員が気付かないところで利用者同士が支えあっていることがある。また、利用者からの感謝の言葉に励まされながら過すことがある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴やライフスタイルを大切にし、今までのペースを乱さないよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者とその家族から生活への要望を確認し、居室担当が中心となり情報を整理し、ケアカンファレンスで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング表の活用とケアカンファレンスを行ない、定期的な見直しとともに変化が見られたときには介護計画の変更を行なっている。		介護計画と日々の記録を連動させることにより、計画の見直しの材料が増え評価が行ないやすくなることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を取り入れ、外食や受診支援など柔軟な対応をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間、緊急時対応可能な協力病院があり、往診も可能である。また、認知症専門医の受診や歯科の往診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族、ホームとが話し合いの場をそれぞれ持ち、終末期に向けた個々の方針を確認している。しかし、管理者はホームの受け入れ態勢としてはまだ整っていないと感じている。	○	ホームとしてどこまで終末期のケアが可能であるのか、利用者は終末期をどのように迎えたいのかを再確認するとともに、家族、主治医、職員との話し合いを進め、方針を固めることが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取り扱いについての書式が整備されており、職員の利用者に対する言葉使いも個人を尊重したものであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々どのように過ごしたいか利用者に確認をしたり、その希望に添えるようケア提供している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を農園で自家栽培し、収穫したものを調理したり、季節感のある食事を心掛けている。また、食の混乱のある利用者に対し、隣で一緒に食事をしながら対応する職員の姿があった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好きな時間に入れるよう取り組んでおり、夜間入浴に対しても取り組んでいるところである。		夜間の入浴体制を今後も整え、続けられるよう取り組みを期待したい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が生活のなかで自然に役割が持てるように配慮し、それが楽しみや気晴らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、外食などのほかに、地域のイベントへの参加や季節の行事など外出する機会を多く持っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等に鍵をかけることはなく、職員の見守りのなかで利用者が外に出られる環境作りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立合いのもとでの避難訓練の他に、夜間想定の避難訓練も行なわれている。また、非常持出し用の利用者情報なども整備されている。地域への協力依頼も行なっている。	○	自治会や民生委員の協力のもとで地域の協力体制の強化が望まれる。また、地域に方の緊急連絡網などの作成で、より安全で的確な対応ができるよう整備が望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受けて献立を作成し、食事量の観察や排泄の観察も行っている。また、便秘予防や体重管理も行なっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良いリビングにはゆっくりと寛げるソファーが置かれている。廊下にもソファーが置かれ、利用者同士の交流の場となっている。また、季節の花が飾られ季節感が感じられるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は今まで使い慣れた利用者が大切にしてきた物が置かれ、身体状況に合わせて使いやすく整理させている。		